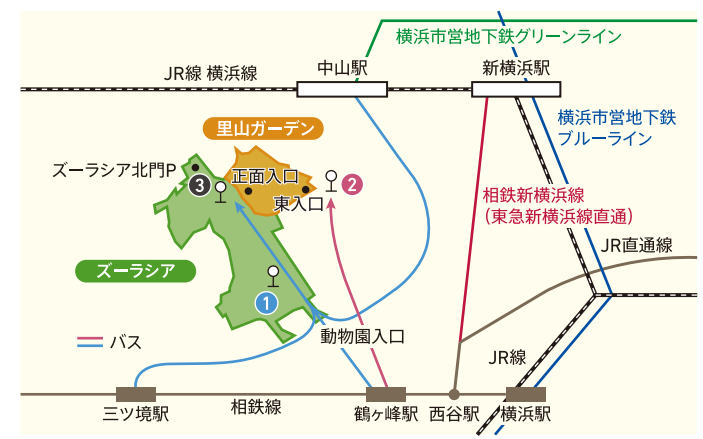


# 里山ガーデンはこんなところ



「ガーデンネックレス横浜」の会場の一つで、横浜動物の森公園エリア内の、森に囲まれた静かな場所に立地しています。毎年春と秋に「里山ガーデンフェスタ」を開催しており、市内最大級、約10,000m<sup>2</sup>の大花壇が横浜の花で彩られます。2023年秋の「里山ガーデンフェスタ」では、「躍動の丘」をテーマにセンニチコウやコスモス、サルビアなどで彩られた、華麗でダイナミックな景色の広がる大花壇が公開されました。周辺には森が楽しめるアウトドアパーク「フォレストアドベンチャー・よこはま」や「よこはま動物園（ズーラシア）」があり、子どもから大人まで楽しめる場所となっています。

※大花壇は春と秋に期間限定で公開しています。

住所: 横浜市旭区上白根町1425-4 (よこはま動物園ズーラシア隣接)

## 最寄り駅から里山ガーデンまでのバスアクセス

相鉄線「鶴ヶ峰」駅、「三ツ境」駅 JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から バスで約20分	<b>①「よこはま動物園」</b> バス停下車 シャトルバス※里山ガーデンフェスタ期間中のみ運行 または徒歩(約15分) ※土休日は●よこはま動物園北門まで延伸している路線があります。	<b>②「西ひかりが丘」</b> バス停下車 徒歩 (東入口まで約5分)(正面入口まで約15分)	<b>里山ガーデン</b>
相鉄線「鶴ヶ峰」駅から バスで約20分			



2023年秋の里山ガーデン

## ここがみどりアップ計画

みなとみらい21地区や里山ガーデンなど、多くの市民が訪れる場所で「都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり」を進めています。地域や施設の特徴に合わせた季節感ある緑花空間をお楽しみいただけます。



横浜みどりアップ 葉っぴー

## ガーデンネックレス横浜

「ガーデンネックレス横浜」は「ガーデンシティ横浜」を推進するリーディングプロジェクトです。花や緑による美しい街並みや公園、自然豊かな里山など、横浜ならではの魅力を発信することで多くの方を横浜に呼び込み、まちの活性化や賑わいの創出につなげます。また、市民の身近な場所で花や緑に関する取組を全市的に進め、花と緑にあふれる環境先進都市横浜の実現を目指します。



2023年春の山下公園

# 横浜市 緑に関わる計画の変遷



※これまでのみどりアップ計画の実績の概要はこちらをご覧ください。



## 横浜みどりアップ計画 [2024-2028] を策定しました!

現行の「横浜みどりアップ計画」は、2023(令和5)年度末までの計画ですが、緑の保全や創出は長い時間をかけて継続的に取り組むことが必要です。そこで、これまでの取組の成果などを踏まえ、2024(令和6)年度以降に重点的に取り組む「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」を策定しました。

計画の理念 「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」



横浜みどりアップ 葉っぴー

## 横浜市でGREEN×EXPO 2027を開催します

2027年の3月から9月に、横浜市で国際園芸博覧会 GREEN×EXPO 2027を開催します。圧倒的な花と緑で皆様をお迎えするとともに、地球環境の基盤である自然、植物への理解を深め、私たち人間もその一部としてともに暮らしていく社会を目指し、「自然・人・社会が共に持続するための最適解」を示します。会場となるのは、旧上瀬谷通信施設です。横浜市の郊外部(旭区・瀬谷区)に位置するこの土地は、2015年に米軍から返還され、2020年3月には「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」が策定されました。GREEN×EXPO 2027は、そこで示された「公園・防災地区」の全域と「観光・賑わい地区」の一部、約100haを活用して開催されます。



### 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

### Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!! ※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

### ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

市民推進会議広報誌

詳しくはこちら!



YokohamaみどりアップAction 第9号  
(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第41号) 令和6年3月発行  
編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会  
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ  
横浜市環境創造局政策課(事務局)  
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093  
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



横浜みどりアップ計画

横浜みどりアップ計画  
市民推進会議広報誌

# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.9  
2024.03

つなげていこう  
みどりのAction



# 里山ガーデンで考える みどりアップ計画のこれまでと今後

横浜のみどりへの取組は1859年の開港以降に山手公園や横浜公園が整備されたことから始まり、時代の変遷による急速な都市化に対応する中で様々な取組が行われてきました。横浜みどりアップ計画もその1つです。

そこで、このみどりアップ計画に計画段階から15年間関わってきた橋本健さんをお訪ねし、里山ガーデンでみどりアップ計画のこれまでと、今後の展望についてお話を伺ってきました。

文：奥井 奈都美、国吉 純、高田 房枝、高橋 秀忠、村松 晶子、望月 正光

## みどりアップ計画で これまで成し遂げてきたこと

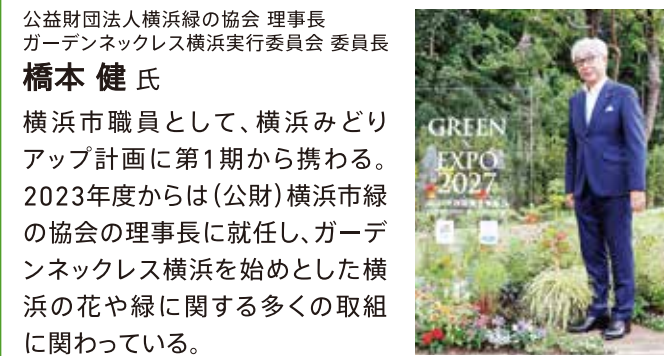
みどりアップ計画は「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するために、樹林地、農、緑花の3つの柱において、目標の実現を目指してきました。みどりアップ計画により、横浜の緑は守られてきました。その成果は、市内各地に多くの市民の森が開園され、保全された水田を見ることができ、市民農園が各所に開設され、街なかに花や木が植えられるなど、私たちも身近に目にしています。

橋本さんはこの計画に当初からずっと関わってきた思いを次のように語られました。

『みどりアップ計画を15年続けてこられたのは、まず多くの市民の皆様の協力があってこそです。森や農地のほとんどは民有地ですから、多くの地権者の方々の協力が不可欠でしたし、取組のすべては行政というよりは、企業や団体、そして多くの市民の皆様が協力して進め、まさに協働型公共事業といえる素晴らしいものになりました。』

市民のみどりへの大きな期待は、計画策定時の意識調査で、横浜みどり税導入への賛成が多かったことにも表れています。現在の市に求める政策でも、コロナ下で身近なみどりを再認識した面もあって、「豊かな自然がある」が上位であり、多くの市民にみどりの保全が支持されています。みどりアップ計画を進めてきて本当に良かったと強く思っています。

近年、地球環境を守るためにSDGsや脱炭素の取組が進



公益財団法人横浜緑の協会 理事長  
ガーデンネックレス横浜実行委員会 委員長  
**橋本 健 氏**

横浜市職員として、横浜みどりアップ計画に第1期から携わる。2023年度からは(公財)横浜市緑の協会の理事長に就任し、ガーデンネックレス横浜を始めた横浜の花や緑に関する多くの取組に関わっている。



横浜市産の花々

められています。世界的に新しい概念が打ち出されて、それをもとにした取組も広がってきています。

その中の1つ、NbS(Nature based Solution)は、自然に根差した地球環境問題解決策を意味します。

2009年から始めた「みどりアップ計画」で実施している取組は、NbSとほぼ同じです。世界の動向に先立って緑の取組を進めてきたこととなります。これは驚くべきことです。このような点も市民・企業の皆様に伝えたいと思います。』

お話を伺って、多くの皆様に支えられてきたこと、大きく期待されていることを念頭に進めてこられたという橋本さんの思いに感銘を受けました。それと同時に、横浜市民の力は素晴らしいと思いました。森を守る愛護会や森づくりボランティア、農地と農業文化を守る農業ボランティア、花と緑のまちづくりを担うグループなど、多くの市民がみどりの活動をしています。そのような市民を支援する人材育成プログラムや助成金も用意されています。これからも市民の力を引き出して、行政と共に横浜市のみどりが守られていくことを願っています。



2023年秋の里山ガーデン

## ガーデンネックレス横浜の取組

ガーデンネックレス横浜は、2017年の「全国都市緑化よこはまフェア」後に始まりました。みなとエリアと里山ガーデンで花と緑を楽しむことができます。春のみなとエリアは、港町よこはまの景観とともに桜やチューリップ、バラといった美しい花々を楽しめ、街を歩く人々の心をウキウキさせてくれるとともに、横浜の「映えスポット」としても浸透しているように思えます。

全国都市緑化フェアは40年の歴史がある全国的なイベントです。他県では大きな公園を会場にして開催することが多いのですが、横浜では、街なかの複数の公園等を会場にして繋いでいくという形が取られました。港町横浜のたくさんの場所が花と緑を楽しめるスポットとなって街歩きを楽しめました。この花と緑の「繋がり」がネックレスを表現しているのですね。

その取組が好評であったため、ガーデンネックレス横浜はその後も継続して毎年開催され、現在に至ります。横浜の花と緑は市民の皆さんの暮らしの中にあり、愛され、親しまれています。

そしてさらに、このネックレスは未来へと繋がります。2027年に開催される国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」です。ここに横浜の美しい自然、花と緑が集結し15年継続してきたみどりアップ計画の成果を見ることができると楽しみにしています。



ガーデンネックレス横浜 マスコットキャラクター ガーデンベア(みなとエリア)

## 里山ガーデンを通じた花育・食育

ガーデンネックレス横浜の会場の一つ、里山ガーデンのメインとなるのが大花壇です。大花壇は緩やかな傾斜を歩きながら花々を鑑賞できるようになっていて、街なかにはない自然豊かな里山の背景をバックにどの角度から見ても美しい景色を堪能することができます。毎年楽しみに訪れている方も多くのことでしょう。

2023年秋のテーマは、浮世絵のような紫や橙色など色とりどりの秋の植物約100品種で構成された「躍動の丘」。いま人気のシックな色合いのグラス類や様々な種類を誇るサルビア、丸みのあるかわいらしい形のジニア類などが植っていました。また、寄附に協力するともらえる「秋の花図鑑」を手に歩けば、ガーデンに咲いている花の名前などを確かめながら楽しむことができます。



里山ガーデンフェスタ 横浜市産の野菜も味わえるキッチンカー

開期中にはボランティアによるガーデンツアーがあり、同じグループの参加者同士で助け合いながら、そのグループなりの花畑の楽しみ方を見つけていました。また、花育としてアンバサダーでもある三上真史さんが「花探し」シートを片手に子ども達とガーデンを巡るイベントも行われました。

日替わりで出店する様々なジャンルのキッチンカーでは、横浜で採れた新鮮で旬な野菜等を使った地産地消メニューも味わうことができました。

花苗のほぼ9割が市内の花き農家さんが1年以上前から準備していたとのこと。横浜市内には野菜や酪農だけではなく、美しい花を作る花き農家さんがたくさん存在していることも知る機会となりました。2027年のGREEN×EXPO 2027でも、この里山ガーデンの大花壇を訪れた方や子ども達が、花や植物、自然を体感し、学ぶことで世界各国の方々に横浜の花や自然を語り伝えていく伝道者としての準備が着々と行われていると感じました。

## 公益財団法人横浜市緑の協会とは？

昭和51年に任意団体「横浜市公園協会」として発足し、平成24年に「公益財団法人横浜市緑の協会」となりました。緑のまちづくりを推進するとともに、市内3つの動物園、横浜山手西洋館、三ツ沢公園等の公園・施設の指定管理など、様々な事業を市民・企業との連携を大切に取り組んでいます。

詳しくはこちら



## 横浜の緑の今後

### ～GREEN×EXPO 2027に向けて～

まとまりのある樹林地や農地がある横浜市緑の10大拠点の1つ、大池・今井・名瀬地区の中に、約242haの旧上瀬谷通信施設地区があります。

GREEN×EXPO 2027はこの地区のうち100haを利用して開催されます。GREEN×EXPO 2027の「GREEN」は「植物」「花」「緑」を総称する言葉で、「自然」、「環境にやさしい」という意味を持ちます。気候変動など国際社会が抱える問題、我が国を取り巻く問題などについて、花・緑・農・食・自然エネルギーの面から展望します。

会場では、自然環境の特性を活用し、水と緑と風の道を効果的に取り入れ、樹木の保全や雨水浸透を生かした木陰や道路、花壇、施設など、自然環境が有する多様な機能を生かすグリーンインフラにより来場者にとって安らぎや心地よさを感じてほしい。

他にも、横浜市では、循環型社会への貢献として、下水道資源を農業に活用する実証事業がスタートしました。市内で発生する下水汚泥から植物の育成に必要なリンを回収し、肥料原料として活用します。このプロジェクトでは、この肥料の本格利用開始もGREEN×EXPO 2027からとのこと。横浜生

まれの肥料の普及が進めば、肥料の輸入に過度に頼らない、資源循環を生み出すことができるでしょう。

GREEN×EXPO 2027は科学技術的なアプローチに加え、自然と人間の共生を目指す新しいアプローチを具体的に示す場だと、橋本さんは次のように語ります。

『横浜では市民力や企業・地権者の方々、JA横浜の協力のもと、花と緑の取組を積極的に、先進的に進めてきました。GREEN×EXPO 2027では、GXやグリーンイノベーションによる解決策を示していくことはもちろんのこと、市民・企業の皆様とともに進めてきた「みどりアップ計画」や「ガーデンネックレス横浜」の成果を、協働しつつ華々しく発信する。そして参加した皆さんがさらに何かを実践し、つながりを広げていく。それが非常に楽しみなのです。』

GREEN×EXPO 2027は期間限定イベントですが、開催後は、本博覧会の理念や取組を継承する公園として「ガーデンシティ横浜」実現の一翼を担い、自然とともにあるグリーンシティ横浜のレガシーとなるでしょう。

## 最後に… Actionを起こそう！

橋本さんから現在世界が目標とする30%以上の健全な生態系の保全(30by30)について、既に17年前の「水と緑の基本計画」(2006年策定)に掲げられていたと伺いました。将来を見据えた綿密な計画を横浜市民として誇りに思えました。また、橋本さんは、GREEN×EXPO 2027開催後のレガシーとして行政と市民・企業の皆様の間を取り持ちたいとも述べられていましたが、緑の取組には市民一人ひとりの思いや行動が不可欠です。

「みどりアップ計画」の目標達成のための3本の柱にはActionを起こせるメニューが多く用意されています。「森を育む」では、残された樹林地の保全について学び、活動する森づくりボランティアへの参加や、市民の森へ行ってみるのも良いでしょう。「農を感じる場をつくる」では農業体験や、収穫体験への参加や市民農業大学講座の受講もあります。地産地消で直売所へ行ってみると横浜で収穫された新鮮な野菜や果物に巡り合えます。「緑や花をつくる」では、地域の方と樹木や花を植えることもできます。2027年開催されるGREEN×EXPO 2027に向けて市民・企業・行政が一体となってActionを起こせば世界に横浜の緑の取組を発信できるでしょう。今日から緑豊かなまちづくりにActionを起こしましょう!!



里山ガーデンでの取材の様子

### はじめてみよう！

## 市民推進委員おすすめActionメニュー



森づくり  
ボランティアはこちら！



あぐりツアーはこちら！



地域緑の  
まちづくりはこちら！



GREEN×EXPO 2027  
情報ははこちら！



最新情報はここから



横浜 GO GREEN  
(X/旧Twitter)



横浜農場(農業振興課)  
(インスタグラム)

